

長期戦略:テーマ 「個別研究の活性化」

提出日 2021年 8月 24日

担当部署

II.実施計画帳票

長期戦略テーマの責任者 (統轄部署)	長峯研究推進社会連携機構長 (研究推進社会連携機構)	実施計画の 担当部署	研究推進社会連携機構
-----------------------	-------------------------------	---------------	------------

1. 実施計画

実施計画(タイトル)	取組開始	達成状況 確認年度	学部・研究科での 取組み有/無	帳票
3-(1)-⑤ 国際共同研究の支援	2019年度	2024年度	必要なし	不要
内容 <p>国際共同研究を積極的に支援することによって、大学全体の国際的な研究力を高め、その成果としての共著論文・学会発表・ワークショップの開催を増加させる。その方策として、以下の観点から、学内研究支援制度「国際共同研究交通費補助制度」の再構築を検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において、研究者の派遣・招聘についてもオンライン化が進んでおり、実際の渡航・招聘が必ずしも必要とはならない状況となっており、コロナ禍の終息後もその流れは継続することも見込まれる。そのため、国際共同研究支援のあり方も再検討のうえ、国際共著論文や学会・ワークショップ開催の増加に繋がる支援策を整える。 ・申請者と海外研究者の交流だけでなく、若手研究者(45歳以下)の人脈づくりのため、交流を活性化させる仕組みを整える。 ・成果として共同研究内容を論文や学会で発表すること、ワークショップの開催を義務づける。 				
進捗状況を測る指標	指標名	定義・算式		
指標1 (※廃止)	招聘人数	制度再構築後、年間5名の海外研究者を招聘する(2022年以降予算の範囲内で増加させる)		
指標2	成果としての国際共著論文・学会・ワークショップの数値	制度再構築後、年間3件		
指標3	SCImago Journal Rank(SJR)でトップ10%であるジャーナルに掲載された論文数	100件程度を目指す(2017年度:78件)。		

目標1<指標1> 招聘人数 ※廃止

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	0	0	—			
実績	0	0	—			

目標2<指標2> 成果としての国際共著論文・学会・ワークショップの数値

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	0	0	0	0	3件	3件
実績	0	<u>0</u>				

目標3<指標3> SCImago Journal Rank(SJR)でトップ10%であるジャーナルに掲載された論文数

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
目標	80	85	90	95	100	100
実績	76	109				

2. ロードマップ

		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
国際共同研究支援制度の導入	策定段階	他大学の施設や制度の事例収集・分析、素案検討	他部署との交渉 制度案検討	制度案承認・公募開始 (研究推進委員会等)	制度実施・改善	制度実施・改善
	2022 年 3 月 末段階	—	—	他大学の制度等事例収集・分析、制度案検討	制度案承認・公募開始 (研究推進委員会等)	—
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階	制度実施・改善	制度実施・改善	制度実施・改善	制度実施・改善	
	2022 年 3 月 末段階	—				
		2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
	策定段階					
	2022 年 3 月 末段階					
		2024 年度	2025 年度	2026 年度	2027 年度	—
	策定段階					
	2022 年 3 月 末段階					

3. 費用計画・人員計画

【費用・人員を必要とする理由】							
非公開							
経費 単位:万円	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	左記以降
非公開							
人員・人件費 単位:万円	2021 年度 承認	2022 年度 承認	2023 年度	2024 年度	2025 年度	2026 年度	左記以降
非公開							

4. 進捗状況・得られた成果

2019 年度	他大学の事例等、制度構築に向けた情報収集・分析を進め、素案検討を行った。
2020 年度	フェーズ 1 の Total Review の結果のとおり、コロナ禍の影響が長引き、研究者招聘が困難な状況が長期化するとの観点から、抜本的な計画見直しを進めることとなった。
2021 年度	
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

5. 今後の課題及び方向性

2019 年度	ロードマップに則り、他大学の事例等を収集・分析し、本学での取り組みの素案を検討中。
2020 年度	ロードマップに則り、収集・分析した他大学の事例を参考にしながら、本学での取り組みについての素案を策定のうえ、関係他部署との協議を進めていく。
2021 年度	国際共同研究の支援制度について、再検討する。フェーズ 2 からの制度運用開始を目指し、具体的制度案を策定する。
2022 年度	
2023 年度	
2024 年度	

6. 学院総合企画会議の基本方針

2018 年度	—
2019 年度	—
2020 年度	国際共同研究の支援の実施について認めます。 ただし、計画が具体的でないため経費について対応を見送ります。 契約職員 1 名についても保留とします。業務量増等により必要となった場合、将来構想推進 WG にて判断します。
2021 年度	詳細未定のため保留とします。 国際共同研究の支援について、ポストコロナを見据えた抜本の見直し・検討を継続実施してください。
2022 年度	
2023 年度	

7. Total Review の結果

【フェーズ I (2019~2021)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
・2021 年度からの実施を計画していたが、コロナによる来日が厳しい状況であるため、抜本的な見直しが必要となる。	継続 ・ 廃止	・同左

【フェーズ II (2022~2024)】

レビュー結果	可 否	備 考 (継続:「フェーズ II に向けた課題」 廃止:その理由と今後の方向性)
	継続 ・ 廃止	